

令和 6 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	3 年間の目標 (令和 6 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3 月 10 日実施)	総合評価（ 3 月 18 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・本校の特色・生徒の進路実現に沿ったカリキュラムを円滑に実践する。 ・コミュニケーション能力、ICT 運用能力を高める授業を推進する。 ・生徒が主体的に学習に臨むための態勢を整える。	(1)完成年度を迎えた教育課程について、指導目標や評価方法を共有する。 (2)コミュニケーション能力向上や ICT 機器活用を特色とした授業を推進する。 (3)授業外の学習指導の機会の充実を図る。	(1)新課程科目について、教科内、科目内、学年団など複数のレベルで共有する機会をもつことのできたか。 (2)コミュニケーション能力向上や ICT 機器活用を特色とした授業を相互見学する機会をもつ。 (3)長期休業中の講習・補習に加え、個別ニーズへの対応についても推奨する。	(1)教科内、科目内、学年団など複数のレベルで共有する機会をもつことのできたか。 (2)コミュニケーション能力向上や ICT 機器活用を特色とした授業を相互見学することができたか。 (3)長期休業中の講習・補習や個別の対応を展開できたか。	(1)「生徒の主体性を育むこと」について、指導目標や評価方法の工夫について懇談会を行い共有した。 (2)生徒の主体性を育むことをテーマとした授業互見の機会を一週間設定し実施した。 (3)長期休業中に例年並みの講習・補習を設定した。また小論文対策など個別指導が熱心に行われた。	(1)懇談会は有意義だったが 1 回しか開催できなかった。今後は各学期の初めなど効果的な時期を狙って計画したい。 (2)授業互見実施後の協議会で、授業の優れた点を共有し有意義であった。 (3)いわゆる年内受験の傾向が高まっており、小論文などに対応した指導体制を再検討したい。	(1)生徒による授業評価で高評価だった科目について有意義な振返りを行って共有しており、高く評価できる。 (2)教員が自主的に授業の互見を行う風土が醸成されており、生徒の主体性をはぐくむ授業実践にも結び付いていると思われる。 (3)進路指導と連携して生徒のニーズに合った講座を設定しており、評価できる。	(1)指導目標や評価方法の工夫について懇談会を 1 回行うことができた。また、生徒による授業評価の結果から振返りを行って共有することができた。 (2)授業互見の機会を一週間設定することができた。実施後の協議会で、授業の優れた点を共有することができた。 (3)長期休業中の講習・補習や個別指導を適切に実施することができた。	(1)懇談会を各学期の初めなど効果的な時期に計画して、教科指導のヒントを教科横断的な視点から得ることを期待したい。 (2)授業互見及び協議会を継続して実施する。昨年度は記録に残すことを目的としなかったが、コミュニケーション能力向上や ICT 機器活用のヒントを共有する機会としたい。 (3)年内受験の傾向や年々変化する生徒観をよく把握し、講習・補習や個別の対応を実施したい。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	・学校行事、委員会活動、部活動、ボランティア活動を通じ自ら進んで参加する精神を確立し、次世代を担えるリーダーを育成する。 ・挨拶を軸とした規律ある学校生活を確立させる。 ・充実した教育相談体制を維持・継続する	(1)生徒が自らルールを考え、主体的に学校行事等に取り組めるように助言・支援を行う。 (2)校内清掃やルールの確認などを生徒自身が自発的に考えるように工夫する。 (3) 外部機関との継続的な連携が行える体制を作る。	(1)生徒会本部役員と各委員会のメンバーが連絡を密にとれるような体制を構築する。また、行事实施後のアンケートを活用して生徒の意識を分析する。 (2)行事運営等の機会を捉えて、ルールの確認や見直しを行うよう促す。 (3)職員による対応の差異が生じないよう外部連携して情報共有していく。	(1)行事運営にあたり各委員会及び生徒会本部の業務が円滑に推進できたか。生徒たちの行事に対する参加意識が高まっているか。 (2)生徒相互の主体的な確認や見直しが行われたか。 (3)複数の教員が複数の案件で継続的な外部連携を行ったか。	(1)体育祭、文化祭などの行事において生徒が自らルールを考え、主体的に取り組めるような指導体制を構築し、実践することができた。 また、生徒会本部役員が各種委員会の生徒の意見を取り入れ連携する体制を推進した。 (2)行事等において、生徒同士で考えながらルールの確認を行った。 (3)複数の生徒で、積極的な外部連携を行い生徒支援につなげた。	(1)今年度は目標を達成することができたが、生徒数及び職員数が減少する中で、学校行事を円滑に運営できるよう、組織・体制のあり方を検討する。 (2)日常生活において生徒が自発的に考える仕掛けづくりを工夫する。 (3)緊急性の高い生徒支援事案が増えている。職員数が減じても、これまでと同水準の支援を行えるよう、持続可能な体制の構築が必要である。	(1)体育祭、文化祭などの学校行事において生徒が自らルールを考え、主体的に活動している姿を見られた。今後の職員数減の中、よい取組が継続されるよう期待する。 (2)行事等において、生徒が主体的に運営している姿が見られた。また教職員との信頼関係が良いことも感じられた。 (3)今後の職員数減の中でも、これまでの生徒支援体制が継続されるよう期待する。頑張ってほしい。	(1)行事を運営する生徒たちと指導する関係職員とが綿密な打合せを行い、連絡体制を構築することができた。また、生徒会本部役員と各種委員会の生徒の意見を交換の場を多く持ち、組織的な運営を実践することができた。 (2)(1)の結果として、様々な行事運営の過程で生徒たちが自らルールを考え、主体的に取り組む意識を持つようになった。課題として、生徒たちが実質的に活動するのは、当該行事の直前の時期であり、企画準備が遅れてしまった場面が多く見られたことが挙げられる。 (3)複数の教員で外部連携を行い、継続的な生徒支援体制につなげた。今後は教員の人数も減るため、皆が同じレベルの支援につなげられるような全体の教育相談スキルの向上が課題である。	(1)生徒と教職員が連携した円滑な行事運営を実践するには、前段階として教職員が綿密に準備する必要がある。次年度以降の教職員減の中では、準備過程のさらなる工夫が必要である。 (2)円滑かつ組織的な行事の運営を実践するために、行事に関わる準備の日程と作業プロセスをさらに丁寧にかつ早めに説明して、生徒たちが計画的に取り組めるような体制を構築する。 (3)支援ケースの情報共有や研修会などを行うことで、全体のスキル向上と、職員が一体となった生徒支援体制の構築を目指す。
3	進路指導・支援	・希望の進路実現のために、高校入学後の早期に進路意識を高めさせ、多様な入試に対応でき	(1)1 年生インターンシップへの全員参加を目指す。 (2)学校推薦型選抜及び総合型選	(1)朝の読書活動等でインターンシップに関するモチベーションを高める。また希望職種が未定	(1)読書活動やインターンシップの実践が職業観の育成に有効だったか。	(1)総合的な探究の時間のテーマに沿った内容で朝の読書活動を実践し、まとめ・発表などを行った。	(1)インターンシップの全員実施を終えたが、引き続き希望者の体験を充実させ、新校に可能な形で引継ぐ。	(1)総合的な探究の時間のテーマに沿った内容で朝の読書活動を実践し、それが進学実績にも反映されていると考えられる。また、20 年間継続した朝	(1)朝の読書活動からインターンシップ・仕事のまなび場での実践、体験発表を通じて、生徒の勤労観・職業観を高め、将来の進路決定につなげることができた。来年度は 1 年生がいないの	(1)2 年生を対象に地区のインターンシップへの参加を積極的に呼びかけ、職業観につながる進学意識を高める。 (2)早期からオープンキャンパスや入試対策を行い、生徒の意識

	視点	3 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月18日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		る力を身に着けさせる。	抜の希望者に対する指導を強化する。 (3)外部テストの事後指導を強化し、四年制大学への進学実績を高める。	の生徒に丁寧な指導を行う。 (2)面接や文書の指導のガイダンスや実践を行い、また教員全員で分担することで、丁寧な指導を継続する。 (3)外部テストの振り返りを適切に行い、面談等で活用することで、個人票の効果的な活用を進める。	(2)面接や文書の指導を効果的に実施することができたか。合格実績上昇につながったか。 (3)外部テストの活用により、生徒の自主学習の進展につなげることができたか。	1年生全員がインターンシップ・仕事のまなび場に参加し、振り返りのまとめを行った。 (2)進路ガイダンスでは面接対策や小論文指導を行い、また、校内でも全教員の協力による指導を行った。 (3)外部テストの振り返りに関する講演を2回行った。また、教員に対する研修も行うことで、より丁寧な指導につなげた。	(2)生徒の入試への意識を早期に高めていくことが課題である。オープンキャンパスや自己分析など、生徒自身の研鑽による合格率向上を目指したい。 (3)新課程移行後の大学入試に向けて、生徒だけではなく教員に対しても入試情報などの情報を共有し、生徒が納得して進路決定ができる支援を目指す。	の読書活動等に文部科学大臣表彰を受けたことは大いに評価できる。 (2)進路ガイダンス、面接対策や小論文指導をていねいに指導しているようで良かった。今後も進路ガイダンス等を充実させて、生徒が早めに進路に目を向けられるよう指導されることが望まれる。 (3)外部テストを充実させることが、一般受験の生徒が増えたことにつながったのではないか。生徒が希望する進路実現をお願いしたい。	で人数が減ることが確実視される。 (2)年内入試に対応して面接指導・文書指導を行い、また進路ガイダンスの内容を入試に向けた内容に改善したことで、6割の生徒が年内入試で進学することができた。一方早期入試に対する認識が甘い生徒は入試に苦戦していた印象である。 (3)外部テストを効果的に活用し、教員に向けての研修も行うことで、高い目標に向けて努力する生徒の育成を目指した結果、一般受験の志望者が約10%増加した。一方、基礎学力の積み上げができていない結果、進学準備となる生徒が例年より多かった。	を高める。特に、2年生の夏休みにオープンキャンパスに参加することを課題とするなどの対策を継続していく。 (3)生徒の基礎学力の定着とともに、教員の進路指導の声掛けについてチームとして一貫性を持たせるようにする。校内模試を実施し、生徒自身が現状と改善方策を自覚するよう指導する。
4	地域等との協働	・シチズンシップ教育及びボランティア活動などを通して地域社会の中の自己を意識できる活動を展開する。 ・地域の教育力を活用した学びを深め、家庭や地域社会との共通理解を深めさせる。	(1)関係団体と連携しながら地域のニーズに応じたボランティア活動を展開してゆく。 (2)HP を中心とした情報発信について、在校生や保護者、地域住民の求める内容を迅速に提供できる体制を構築する。	(1)地域貢献に係る各行事の前に関係団体と事前打合をを綿密に行う。 (2)生徒の主体的活動と本校の教育活動を HP に迅速に発信できるような体制を構築する。	(1)参加率を維持し安全かつ有意義な地域貢献活動を行うことができたか。 (2)閲覧者の立場に立った HP の更新を迅速に行うことができたか。	(1)外部団体や関係機関との綿密な打合せのもとに、新川清掃や片岡幼稚園との交流事業などのボランティア活動を、安全かつ有意義に行うことができた。 (2)タウンニュース鎌倉版に入学式に関する記事の掲載を依頼するなど幅広いメディアを使って教育活動を広報することができた。	(1)生徒数と職員数が減少する中で、既存のボランティア関連行事をどのように運営しているか検討する必要がある。 (2)昨年度までは中学生を閲覧対象に想定した HP の記載内容だったが、今年度は「地域住民への発信」というコンセプトへの移行が遅れたため結果として更新回数が激減してしまった。	(1)外部団体や関係機関との協働や連携の中で、新川清掃や片岡幼稚園との交流事業など様々なボランティア活動を行っている。その結果、鎌倉市長から市政功労の感謝状を受けたことも高く評価できる。今後の学校規模縮小で地域との協働も縮小することは寂しい。 (2)地域に発信する姿勢で HP を作成してほしい。	(1)さまざまなボランティア活動に関係諸機関との綿密な打ち合わせのもとに安全かつ有意義に行うことができ、生徒たちが達成感と地域へ貢献する実感を得ることができた。その一方で、全校規模で生徒が参加したのは、地域貢献デーにおける清掃のみで、その他の活動は参加を希望した一部の生徒であった。 (2)学校 HP だけでなく地域広報誌などのマスメディアを利活用して広報活動を行うことができた。しかし、HP の更新回数が昨年度に比べ大幅に少なくなったことは来年に向けて大きな課題を残した。	(1)生徒たちにボランティア関連行事の情報を広く伝え、参加率が上がるよう工夫する。 (2)学校行事や本校の教育活動を広く地域に知らせるために定期的な HP の更新をめざし、組織的かつ簡略された体制を構築する。
5	学校管理 学校運営	・事故、不祥事防止に向けた取組を徹底し、信頼される学校づくりを進める。 ・安全・安心で円滑な学校生活が送れるような校内環境を維持する。	(1)個人情報の文書管理、電子データの管理方法について職員の意識向上を図る。 (2)感染症予防も含めた校内環境の整備を推進し、防災においては自助能力の向上を図る。	(1)対策重要度別の管理方法を周知し、ICT の活用にもなう適切な運用方法を徹底する。 (2)校内美化、環境衛生を充実させる。 (2)校内美化、環境衛生を充実させ、防災教育では、実効性の高い内容に見直しを進める。	(1)対策重要度別の管理方法について周知徹底できたか。 (2)校内美化、環境衛生を充実させることができたか。また、防災教育では、自助能力の向上につながる実効性の高い内容へ見直しが見直しができたか。	(1)不祥事防止会議で対策重要度分類表、校務データの取り扱い、ICT 利活用に係る留意点等を周知し適切な運用ができた。 (2)ごみの持ち帰り指導を継続し校内美化において成果を上げ、DIG や HUG 等を通じて自助、共助について理解を深めさせることができた。	(1)紙媒体、電子データともに保管する量が年々増え続ける中で、古いものを計画的に整理する必要がある。 (2)校内美化は高い水準で保たれている。生徒が日常生活をより快適に送れる環境づくりを果たしたい。	(1)個人情報の扱いに留意していることが説明から理解できた。今後も事故や不祥事の防止に取組んでほしい。 (2)校内美化は高い水準で保たれている。今後も生徒が日常生活をより快適に送れる環境づくりを継続してほしい。	(1)個人情報の管理について事故・不祥事防止の意識が職員に定着し、適切な運用ができた。ICT の活用が進み、電子データの取り扱いや増えていく電子データの整理について共有していく必要がある。 (2)ごみの持ち帰り指導を継続し、生徒の前向きな取り組みの結果、校内美化は高い水準で保たれている。生徒の主体的な校内環境の維持、向上への意識を引き続き高めていきたい。	(1)電子データの取り扱いについて改めて職員研修を進めていくとともに、サーバー内のデータ整理を計画的に進めていく。 (2)完校に向け、生徒、職員数が減っていくなかで、自分たちが過ごす校内の美化を生徒主体で推進できるよう生徒会と協力して進めていく。